


令和6年度 アレルギー疾患に関する3歳児調査結果(概要・抜粋)

| | |
|--------|--|
| 調査目的 | 都内3歳児におけるアレルギー疾患のり患状況や保護者のニーズ等を把握し、普及啓発等アレルギー疾患対策を効果的に推進するための基礎資料とする。 なお、本調査は平成11年度から5年毎に実施している。 |
| 調査対象 | 令和6年10月に都内区市町村で実施された3歳児健康診査の受診者及びその保護者 (計 7,912人) |
| 調査方法 | WEB調査 3歳児健診受診者の保護者に調査依頼状を区市町村の協力を得て配付し、WEB回答 |
| 回答数 | 2,355人 (回収率 29.8%) |
| 主な調査項目 | <ul style="list-style-type: none"> ◆ アレルギー疾患*のり患状況 (症状及び診断の有無等) *ぜん息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎(花粉症を含む)、アレルギー性結膜炎、消化管アレルギー(食物蛋白誘発胃腸症) ◆ アレルギーに関する情報の入手方法 ◆ 災害の備え ◆ 子どものアレルギー疾患対策に関する希望 等  |

※ なお、集計は単純集計であり、地域や属性等の偏りを完全に補正していないため、結果の解釈には留意が必要です。

1. 3歳までに「何らかのアレルギー症状」がみられた子どもの割合は 65.4%

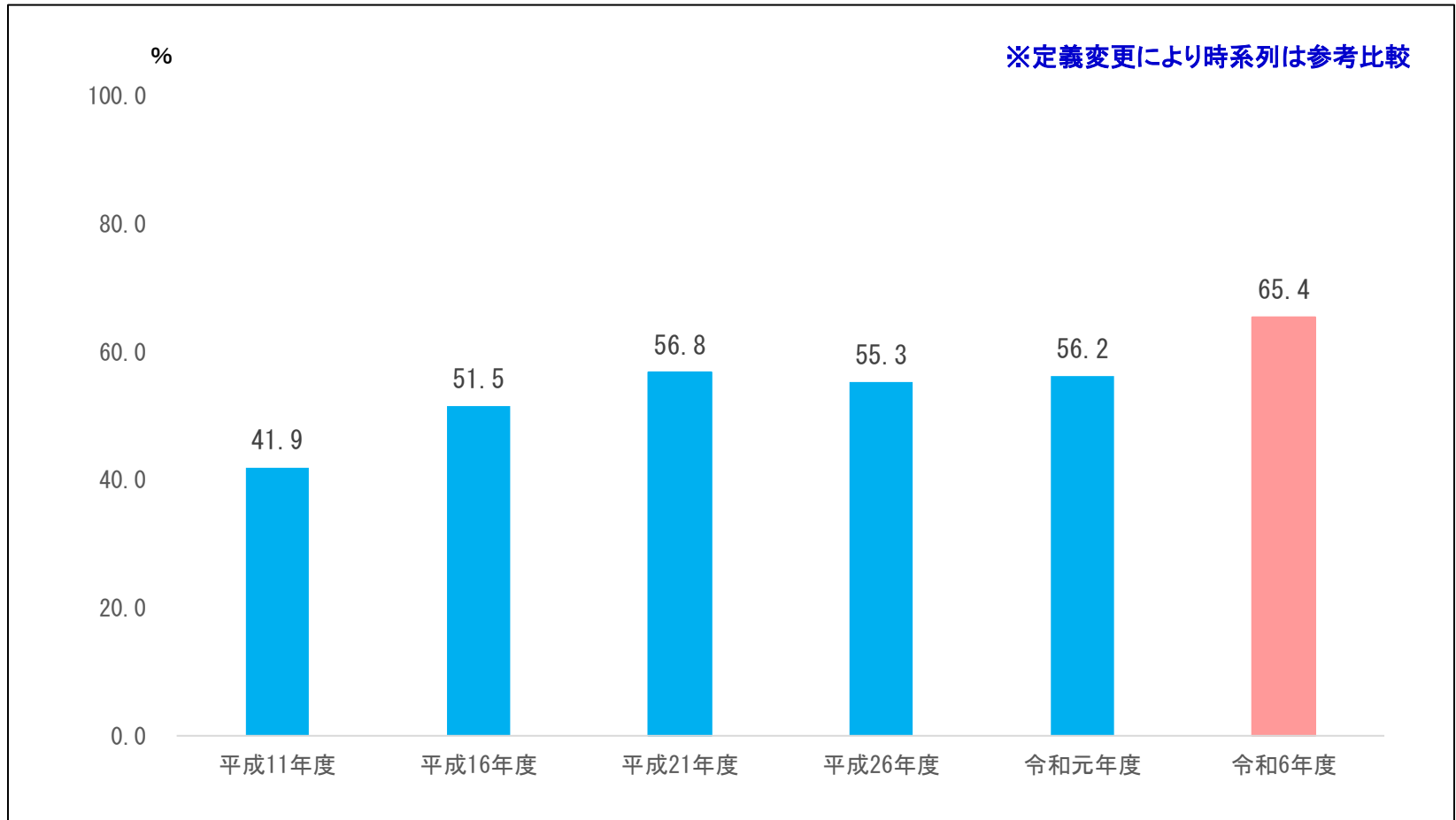


図1 3歳までに「何らかのアレルギー症状」*1がみられた子どもの割合の推移*2

*1 アレルギー症状：ぜん息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎の症状、平成11年度から令和元年度までは「じんましん症状」を含む。令和6年度から「消化管アレルギー（食物蛋白誘発胃腸症）症状」を含む。各アレルギー疾患の診断の有無は問わず。

*2 割合の推移については、調査年により症状の定義や構成が一部異なるものがあるため参考比較。

2. 3歳までにアレルギー疾患があると医師に診断された子どもの割合は 前回調査時に比べ、「ぜん息」以外すべての疾患で減少

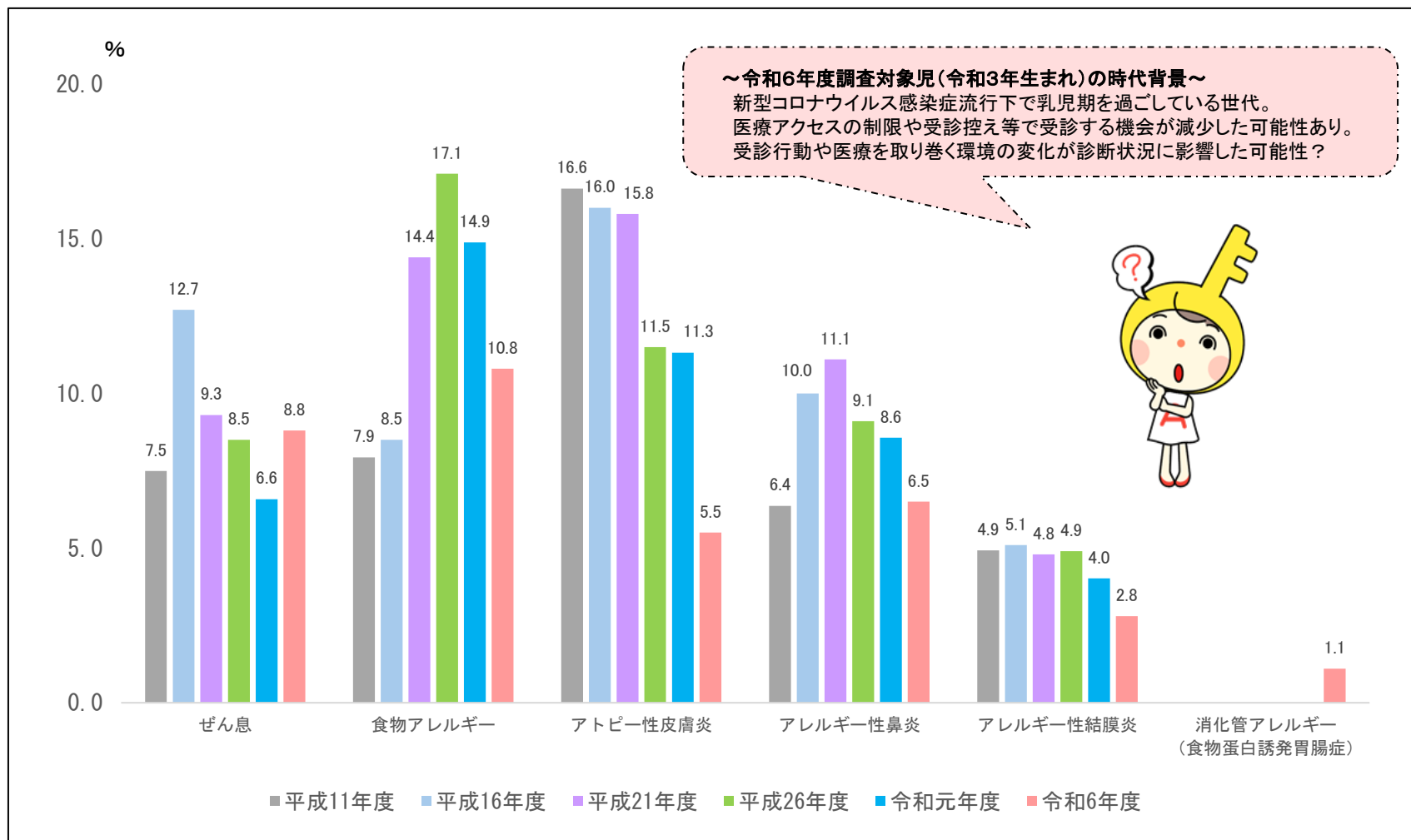


図2 各アレルギー疾患のり患状況の推移（3歳までにアレルギー疾患があると医師に診断された子どもの割合）

※消化管アレルギー(食物蛋白誘発胃腸症): 特定の食物を食べたあと、約2時間から数日後に嘔吐を繰り返す、または血便・下痢などの消化器のみの症状を繰り返す疾患(ただし、食中毒や感染症等による胃腸炎、乳糖不耐症、食べ過ぎではないもの)。令和6年度から調査を開始。

3. 3歳までに「消化管アレルギー(食物蛋白誘発胃腸症)症状」※がみられた子どもの割合は全体の2.7%、そのうち診断されたのは40.6%

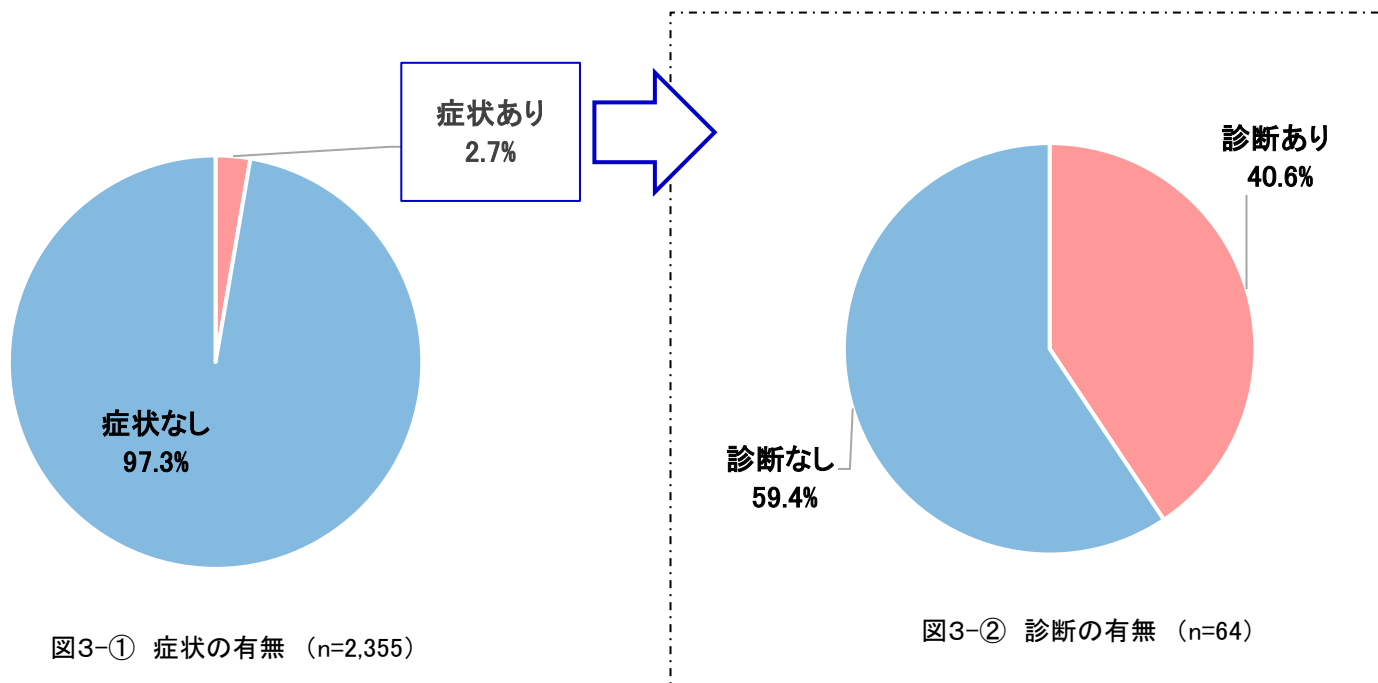


図3 3歳までに消化管アレルギー(食物蛋白誘発胃腸症)症状*がみられた子どもの割合及び診断された割合

※消化管アレルギー(食物蛋白誘発胃腸症)症状: 特定の食物を食べたあと、約2時間から数日後に嘔吐を繰り返す、または血便・下痢などの消化器のみの症状を繰り返し起こしたことがある(ただし、食中毒や感染症等による胃腸炎、乳糖不耐症、食べすぎではないもの)

4. アレルギー症状が出現した原因食物のうち、「クルミ」の割合が 11.0%で 前回調査時より +5.0 ポイント上昇

| | 平成16年度 | 平成21年度 | 平成26年度 | 令和元年度 | 令和6年度 |
|----|-----------------------|----------------------|---------------|----------------------|------------------------|
| 1位 | 鶏卵 (83.8%) | 鶏卵 (83.9%) | 鶏卵 (81.0%) | 鶏卵 (74.0%) | 鶏卵 (55.6%) |
| 2位 | 乳 (35.0%) | 乳 (36.3%) | 乳 (33.3%) | 乳 (28.5%) | 乳 (18.7%) |
| 3位 | 小麦 (11.5%) | 小麦 (12.9%) | 小麦 (14.6%) | 小麦 (13.8%) | クルミ (11.0%) |
| 4位 | 落花生(ピーナッツ) (10.9%) | 落花生(ピーナッツ) (8.5%) | いくら (9.2%) | クルミ (6.0%) | 小麦 (9.2%) |
| 5位 | 大豆 (10.6%) | 大豆 (7.8%) | 大豆 (6.3%) | 落花生(ピーナッツ) (5.3%) | 落花生(ピーナッツ) (5.6%) |

表1 3歳までに食物でアレルギー症状が出現した原因食物(複数回答、上位5位)

5. 食物アレルギー児をもつ保護者で「アレルギー対応食品の備蓄」を実施している割合は 23.2%、その備蓄量は「3日分」が最も多い

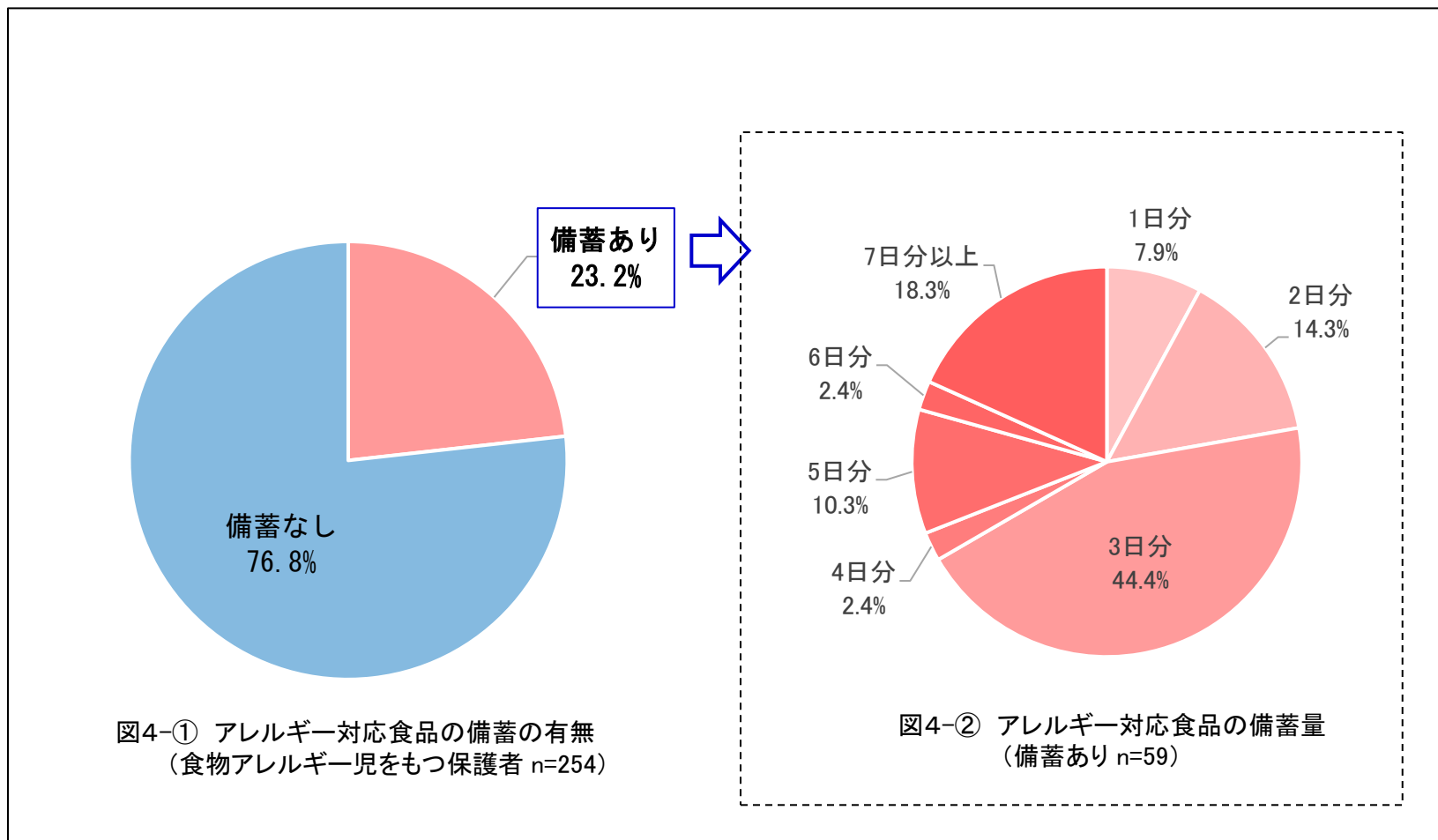


図4 食物アレルギー児をもつ保護者における「アレルギー対応食品の備蓄」の実施状況

6. アレルギーに関する情報は、「医療機関や薬局等」(66.8%)に次いで「インターネット検索やSNS配信」から入手する保護者が 58.9%

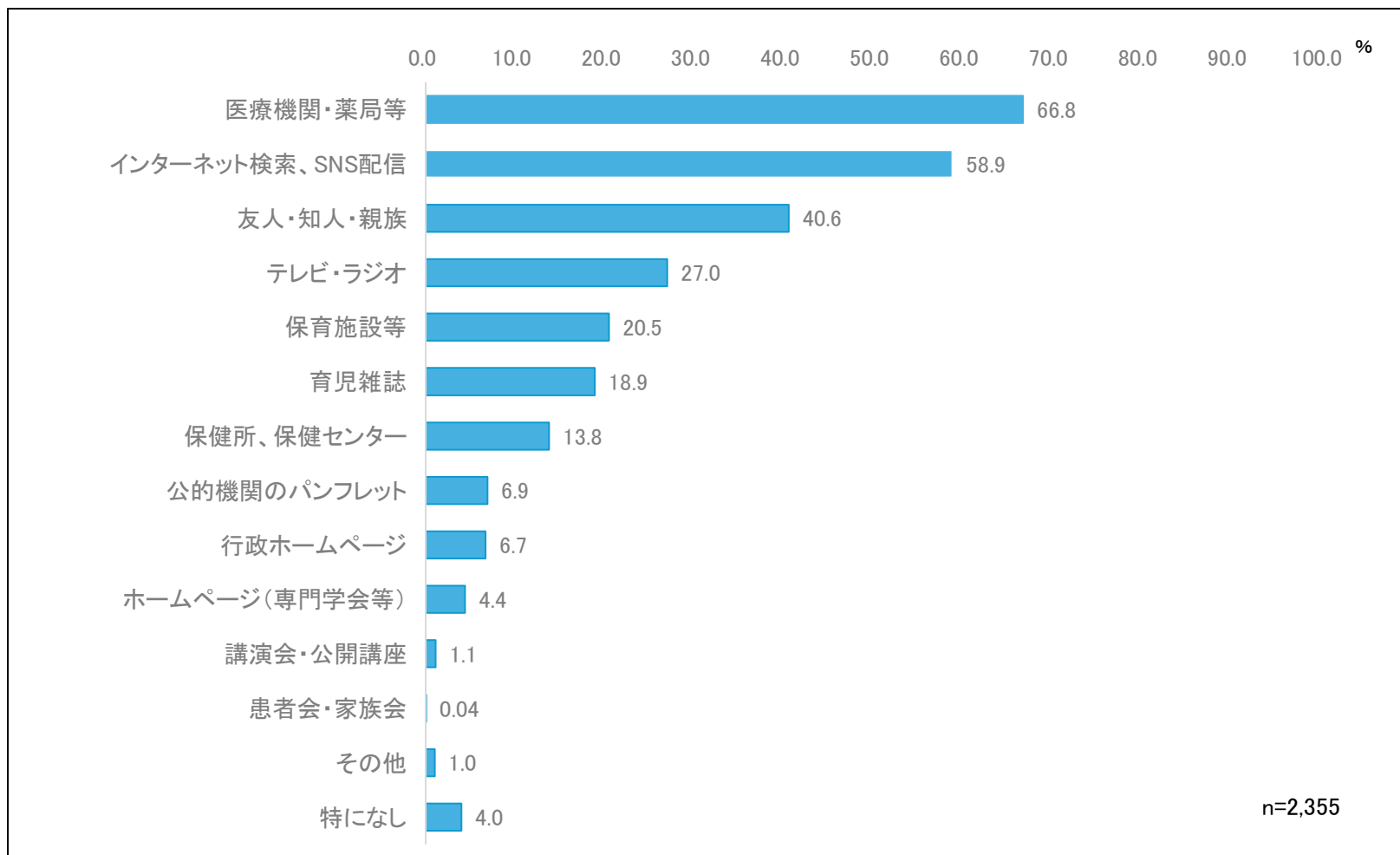


図5 3歳児をもつ保護者におけるアレルギーに関する情報の入手方法（複数回答）

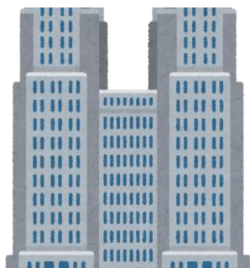
7. 多くの保護者は、アレルギー疾患に関する「情報提供」や「相談対応」等を希望

n=2,355



保育施設・幼稚園等への希望

アレルギー疾患に関する職員の理解と知識・技術の向上 (65.4%)



行政（都・区市町村）への希望

アレルギー疾患に関する正しい知識や情報の提供 (66.8%)



医療機関への希望

病状や薬・治療法などの十分な説明や相談対応 (76.3%)